

みえのうみ通信



さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、ときに心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちがはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくためにオールジャパンで推進するプロジェクトです。



海と日本in三重県HP

10月3、4日「海と日本プロジェクト みえのうみ通信社」が津市、伊勢市、鳥羽市で開催されました。このイベントは次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人がつながる日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で行われたもので、今年で4回目。県内在学の小学5、6年生が参加して「みえのうみ通信社」の記者となり、「伊勢神宮誕生に関わる三重の海」をテーマに体験取材し記事を書きました。子ども記者たちが取材したところ、感じたところを発信します。

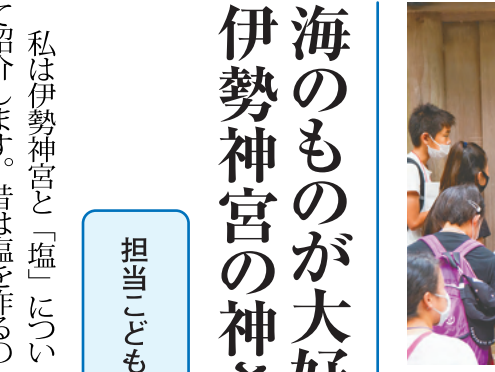
魚を捕りすぎないために 漁の方法から学ぶ海の大切さ

担当子ども記者 近藤琢翔 小山樺楓 牧野花莉音

海の博物館では魚を捕る方法や海女さんのことを学べます。魚を捕る方法は、じびき、あみりょう、引きつり、一本釣りなどがあります。海の生き物が減る原因は、機械などの力で魚を捕りすぎてしまうか



私は伊勢神宮と「塩」について紹介します。昔は塩を作るのにとても手間がかかっていた。今では簡単に手に入る塩も昔ほど貴重な物です。塩づくりに長い歴史があり、いかに海水から効率よく塩を採るかを追求した歴史ともいえます。(中原未遥)



伊勢神宮では、大事なお祭りの「かんなめ祭」のときは、お水、お酒、かつおぶし、しおひもの、海藻など25種類もおそなえされるそうです。さらに大事なお祭りのときは、のしあわびがおそなえされるそうなのですが、国産のとれたあわびじゃないとだめだと知りおどろきました。(伊藤志桜)



伊勢神宮では、大事なお祭りの「かんなめ祭」のときは、お水、お酒、かつおぶし、しおひもの、海藻など25種類もおそなえされるそうです。さらに大事なお祭りのときは、のしあわびがおそなえされるそうなのですが、国産のとれたあわびじゃないとだめだと知りおどろきました。(伊藤志桜)

伊勢神宮の神々にまつわる学び 海との関係におどろきも

担当子ども記者 伊藤志桜 奥野莉朋 土井健生

伊勢神宮では、大事なお祭りの「かんなめ祭」のときは、お水、お酒、かつおぶし、しおひもの、海藻など25種類もおそなえされるそうです。さらに大事なお祭りのときは、のしあわびがおそなえされるそうなのですが、国産のとれたあわびじゃないとだめだと知りおどろきました。(伊藤志桜)

海のもの大好きな 伊勢神宮の神さま

担当子ども記者 中原未遥 桃井茜 北川英崇

私は伊勢神宮と「塩」について紹介します。昔は塩を作るのにとても手間がかかっていた。今では簡単に手に入る塩も昔ほど貴重な物です。塩づくりに長い歴史があり、いかに海水から効率よく塩を採るかを追求した歴史ともいえます。(中原未遥)



伊勢神宮の内宮には、天照餅・酒・野菜・果物などが、おそなえされていることを初めて知りました。(桃井茜)

複雑で難しい塩の歴史 奉納される品には海のものも

担当子ども記者 伊藤奏詩 藤井咲衣 矢田煌典 堀美佑香

伊勢神宮では祭りが年間1500回も行われ、その中で一番大切なのは新嘗祭です。水産物とお酒をそなえる理由は、大昔に倭姫命が天照大御神へのおそなえ物をさがしに行き、海女さんに出会ったから。と



海と日本in三重県HP

実行委員長 廣田三重県副知事 ~子ども記者の報告を受けて~

海と日本プロジェクトin三重県「みえのうみ通信社」4回目となる取材テーマは「伊勢神宮誕生に関わる三重の海」でした。今回、子ども記者の皆さんに、「伊勢神宮には2,000年前から海女漁で捕れた海産物が奉納されていること」「伊勢神宮にとって、塩作りがとても大事なこと」などについて、取材を通じて深掘りしていただいたことに感謝します。子ども記者の皆さんの取材報告を聞いて、改めて、伊勢神宮が、私たちの住んでいる三重県にあることが素晴らしいことだと思います。また、三重県の歴史を知る上でも、今回の取材はとても良かったと思います。最後に、私は小学校の卒業文集に「新聞記者になりたい」と書いていました。だから、今回の「みえのうみ通信社」の体験、子どもの頃にやってみたかったと思いました。良い経験をしましたね。子ども記者の皆さんには、今回の体験を活かして、これからも希望を持って、活躍してくれることを期待しています。



2000年前からある漁法で 守られてきた三重のきれいな海

担当子ども記者 松本結良 村林香穂 北川尚崇

伊勢神宮の大事なお祭りの一つ「かんなめ祭」は夜中にやります。どうしてだろうと思います。それは、昼間は人間の時間、夜は神様の時間だと考えたそうです。ほかにもいろいろありますが1年間で1500回ほどのお祭りが行われるそうです。伊勢神宮のお祭りをもう一つ調べてみたいと思いました。(松本結良)

- 今回の取材先
- 伊勢神宮内宮(伊勢市宇治館町1)
 - 二見浦(伊勢市二見町茶屋)
 - 御塩殿神社(伊勢市二見町荻)
 - 海の博物館(鳥羽市浦村町大吉1731-68)
 - マリナー河芸(津市河芸町東千里854-3)



いろいろな漁法を調べました。地びき網漁はたくさんの方が協力して行います。パッチ網漁は昭和の初めから始まった漁法で、大きな網を使っている。一本つりはカツオなどの大きな魚をつとむときの漁法です。海女漁は海にもぐっておこなう漁法で約2000年前からあります。三重の海を守るためにきれいな海を保っていきましょう。(村林香穂)

編集後記

4回目の「みえのうみ通信社」は「伊勢神宮誕生に関わる三重の海」をテーマに行われました。取材先で子ども記者の皆さんは熱心に話を聞き、さまざまな体験しながら自分の興味があることを見つけていたように感じました。今回の経験を通じ、三重県や伊勢神宮の歴史、海や自然について関心を持ってもらえればと思います。



みえのうみ通信社



三重県内在学中の小学5、6年生が「みえのうみ通信社」の記者となり、10月3、4日に伊勢神宮内宮、二見浦、御塩殿神社、海の博物館、マリナー河芸を訪問。伊勢神宮と豊かな海の関係取材し、「みえの海をPRするメニュー」の開発にも挑戦しました。

